

# 「友松」の変遷

No.4 2010年(平成22年) 3月10日

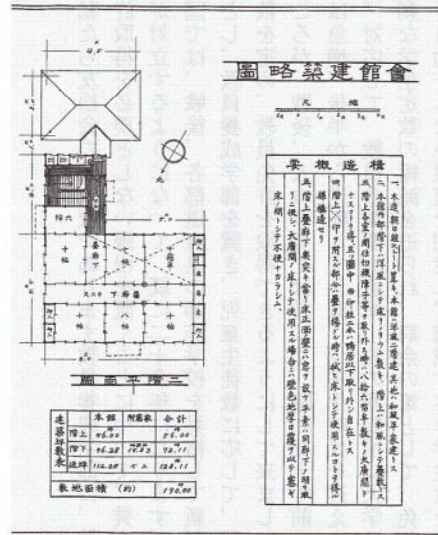
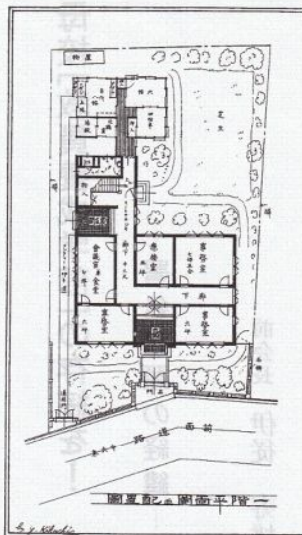
昭和6年に発行された「友松」18号は、「友松会館落成記念号」として発行されている。目次を見ると、「友松会館落成式次第並に關係記事」が中心で、式辞、祝辞、会館略図、会館建設の趣旨及経過の概要、会館落成式状況、会館経営の概要、会館建設会計報告、会館建設寄付者芳名等が掲載されている。

そして、友松会館全景写真、会館内部、落成式状況等の写真がグラビアに載せられている。

その他の記事は、所感、寄稿、弔慰、講習会消息、教育春秋、県内消息、会務・会計報告、編集後記等で、全体133ページになっている。



友松会館全景



## 友松會館建設會計報告

一、収入之部		總額
内譯		一八、一九七、二八
友松會館建設積立金(利子を含む)	四、七七九、六二	
友松會館建設寄附金	五、九四〇、六六	
神奈川縣師範學校學友會寄附金	七、四七七、〇〇	
一、支出之部		
總額		一四、六一五、六六

内譯		差引殘金
友松會館並附屬家建築費	一〇、七三六、六六	
其他工事費	一、七一三、三二	
建設諸雜費	五九〇、二五	
備品費	一、五七六、四三	
差引殘金		三、五八一、六二

殘金は會館備品の購入並に維持の經費に充つ

上の図は「会館建築略図」で、内容として、敷地面積 190 坪(約 63 m<sup>2</sup>)、本館延坪 112.28 坪(約 370 m<sup>2</sup>)、階上(2階)56 坪(約 185 m<sup>2</sup>)、階下(1階)56.28 坪(約 156 m<sup>2</sup>)と記してある、当時としては洋風 2 階建の洒落た建物で、建築費用は、積立金と寄付金で賄われている。

# 式 辞

「友松」十八号に掲載した板谷里次郎氏（初代友松会長）の文章を再掲する。

明治十九年卒 板谷 里次郎

本日多数来賓各位の御臨場を得まして、我が友松会館の落成式を挙行致します事は、私共の最も欣快に堪えない所であります。

神奈川県友松会館の建設を企画致しましたのは、既に明治四十五年であります。爾来会員の醸金をはじめ、諸般の計画を進めて参りましたが各種の事情によって、今日まで其の実現を見る事が出来なかつた事を常に遺憾に存じて居たのであります。然るに昨年神奈川県師範学校校友会が本会館建築費として多額の資金を寄附せられましたのを機会に、会館建設の機運を促進し、茲に従来の計画の一大変更を加え其の建築の実現を見、多年の懸案を解決するを得ました事は本会の最も満足とする所であります。今後この会館を中心として内は吾々同窓の懇親を深め其の研究に、修養に、幾多の便益を得るであろうと存じます。外は各般の教育的事業を実施致しまして此の会館建設の意義を発揮致したいと存じます。会員各位何とぞ之の建設の趣旨を諒とせられ、此の会館利用に対し一段の留意を希望してやみません。会館建設に当たり非常なる御厚意を寄せられました豊田前神奈川県師範学校長殿、平沼横浜市会議長殿に対し衷心から感謝の意を表します。尚この会館のために御配慮を戴きました御方々に対し、これ又深く御礼を申し上げます。茲に一言述べて御挨拶と致します。

建築総額は14,615円66銭と会計報告書に記してある。昭和6年当時の約18,000円は、現在の幾らになるのだろうか。（当時の価格を1万倍とすると、現在の価格では、1億8,000万円になる）

建築費用は、積立金、建設寄付金、師範学校校友会寄付金が充てられている。寄付金は、神奈川県下、県外の市・郡等の公共機関からと、個人（友松会員）から募っている。

友松会会員の寄付金は1人1円以上で、精力的に集めたようである。約1,300人の会員からの寄付があり、中には3円、5円、10円と寄付し、高額100円を寄付する者さえいた。

友松会館建設後、「会館経営を主としたる事業計画」を作成し、①購買会の組織、②法律顧問部の設置、③建築、保険、診療部の設置、④会館の宿泊、集合、研究等の事業を展開し、会員相互の便利機関として経営していった。

事業の中には、研究部事業、調査部事業、秀才教育事業、吃音矯正所等あり、積極的に事業を進めている。

建設された友松会館の落成式は、神奈川県知事、

## 會館落成式の狀況

昭和七年二月二十八日、氣づかはれた空も名残なく晴れ渡つて絶好の落成式日和、準備委員の手によつて萬端の用意は既に整ひ大國旗は空闊に翻り、紅白の幔幕は館外に張り纏らされ、木の香の高き館内には、有吉忠一閣下、内堀先生、西松先生、福田正夫氏等揮毫の掛物や扁額を初めとして、青木幹氏等友松美術会員の厚意による油繪の力作は、各室に華やかに飾ざられ、美しくも輝やかに盛装を疑らして開式の時の至るを待つ。

午前十時、縣市當局や前會長の來賓を始めとして客員及び會員は陸續として來館、階上八十餘疊の大廣間は鮎詰となつて列座のもとに、左の順序によりて式は舉げらる。

- 一、開 式 の 辭 (福本幹事)
- 二、君 が 代 (證谷幹事)
- 三、計畫及工事報告 (證谷幹事)
- 四、會 長 式 辭 (板谷會長)

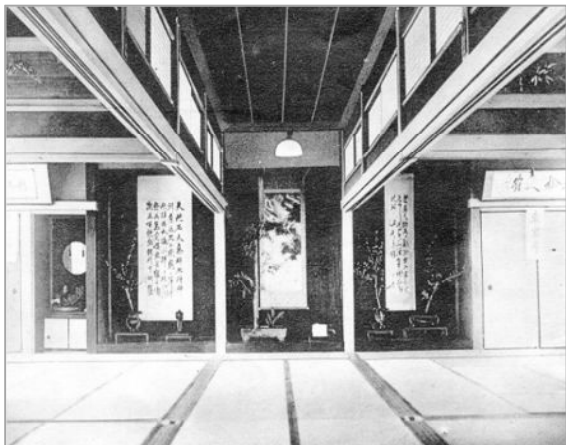
五、工事功勞者に對し感謝狀及記念品贈呈 (菊地頼治氏)

- 六、祝 辭
  - 神奈川縣知事 代(河邊教務課長殿)
  - 横 濱 市 長 代(村山助役殿)
  - 神奈川縣會議長 (山崎小三殿)
  - 横 濱 市 會 議 長 (平沼亮三殿)
  - 神奈川縣師範學校長 代(大野教頭殿)
  - 前 會 長 (豊田潔臣殿)
  - 同 會 員 總 代 (永瀬伊一郎殿)
  - 同 會 員 總 代 (内堀維文殿)
  - 同 會 員 總 代 (沼田頼輔氏)
  - 同 會 員 總 代 (金子政幹氏)
- 七、閉 會 の 辭 (式終了後)

來會者五百を算し、爲に式場は文字通りの大入満員、立錫の餘地なく、入口の狭き廊下から背延びし遙かに、會衆の頭の尖だけでも眺めることの出來

横浜市長、神奈川県会議長、横浜市会議長、神奈川師範学校校長、友松会前会長等々、大勢の来賓を招待し、参加者は500名以上の参加者があったと記録されている。

祝賀会は、会館の1階、2階、庭園の隅々まで開放して盛大に行はれた。記念号の文中から引用すると『各々皆右手に折詰左手に瓶詰、或は来賓を中央に、或は旧師を中心に、同級生は各所に車座となつて飲み且つ食い、笑い談ずる様は、全く他には見ることの出来ない歓喜満悦の麗しい情景で、真に嬉しくも喜ばしき極みであった』と旧字、旧かなづかいで書いてある。当時の会員は3,000人で、『友松会は茲に漸く根拠地を得て、愈々礎を固め、益々結束を強め、以って本会館が今後本会発展の中心点、活躍の源泉地となつて重大なる尊き使命を達成するやう念願して止まぬ次第である』と記してある。



会館内部



落成式状況

友松会館は、10数年間、会員に有効に活用されたが、「昭和19年、太平洋戦争の戦運危機に際して、惜しくもこれを国鉄に移譲するの止むなきに至った」と記録に残っている。その後、太平洋戦争は益々窮地に陥り、横浜大空襲があった際、移譲した友松会館は焼失してしまった。移譲したことは幸いであったのだが、その譲渡金（当時の価格で約40万円）は戦後の封鎖でゼロになってしまったということである。

下の記事は「教育春秋」というタイトルで、退職者、校長在職者、最近卒業者の3欄に分けて、教職在職年数、現在の様子、感想、教育心情、喜びと不満等々を書いてある。一読してみると面白い。

**退職者(劉君)**

一、教育界に在職年数  
二、退職して何年  
三、教育界に對する感想

武 新太郎

一、退職して何年  
二、退職して何年  
三、退職して何年

藤田 邦治

一、退職して何年  
二、退職して何年  
三、退職して何年

宮崎 清光

一、退職して何年  
二、退職して何年  
三、退職して何年

鈴木 正男

一、退職して何年  
二、退職して何年  
三、退職して何年

**校長在職者(劉君)**

一、在職年数  
二、現在の様子  
三、感想

無記氏名

一、在職年数  
二、現在の様子  
三、感想

藤田 邦治

一、在職年数  
二、現在の様子  
三、感想

宮崎 清光

一、在職年数  
二、現在の様子  
三、感想

鈴木 正男

一、在職年数  
二、現在の様子  
三、感想

**教育春秋**

生徒変化は彼の家の家である。師中の動揺化の中の統一見識は相も  
疑ふの融合としての人格が文化の論議に重なるまで海人が社会からの対立より  
然し吾々はかろした直向たる思想界に満足は出来ぬ。強固なる指導精神を樹  
立して現代を善導しよき將來を創造したいものだ。その理想を方途に對して  
も命や短途の相異から、色々と脱力も出るであらうが吾々は今靜かに若き教  
育者の意見を聴きたい。活むる人としての抱負をも又々大先輩の責任体験を  
も聴きたい。

本誌も亦この礎を設けて教育者の意見を聴きたる事を悦ばせ共、よく静思玩  
賞は、自己の恥も願ひたい。

